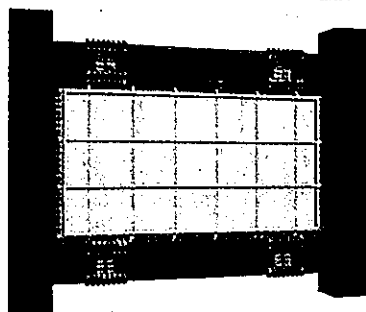


JFEの制振壁

安全性・設計法で評定 デバイス商品拡充へ

JFEスチールとJFEンビルは、耐震・制振デバイス商品の拡充を図る。壁型の「JFEの制振壁」の構造安全性と設計法について日本建築センターの評定を取得。既に評定を取得しているプレス、間柱型に制振壁を加えることで、建築構造設計者が利用できる制振デバイスのメニューがさらに充実した。2016年度はすべての型で20億円売り上げを見込む。3年後にはこれを倍増させる計画

だ。「JFEの制振壁」は、JFEスチールが開発した鋼材



制振壁のイメージ

を使い、JFEンビルが製造・販売している。主要構造部に使用される鋼材よりも降伏点が低く伸びが優れた建築構造用低降伏点鋼材を、地震エネルギーを吸収する鋼材パネルとして使い、鋼材パネルを適切にリブ補強することで、地震の際にパネル全体が安定的に地震エネルギーを吸収できる。巨大地震や長周期地震動に対して、超高層建築などの建築物の被害を抑えることができる。

今回は両社共同で、地震の繰り返し荷重に対して疲労性能を明確にし、制振壁の構造安全性とその設計法が妥当であることの評定を受けた。